

共通する深刻な人手不足

会議所業種別推進委員の連絡協議会

山形商工会議所の業種別推進委員の本年度第2回の連絡協議会が10月25日、会議所会館で開かれた。山形市内の各協同組合・協議会の推進委員が出席し、各業界の現状を説明、意見を交換した。

連絡協議会では、早川博泰日本政策金融公庫山形支店国民生活事業統轄が、今年7-9月期実績について「業種別にみると非製造業、飲食店・宿泊業、サービス業、建設業は低下しているが、製造業、卸売業、小売業は改善している」と説明。10-12月期は「7-9月期より1.2ポイント低下してマイナス31.5ポイントとなる」と見通しを示した。

引き続き各委員が現況について紹介した。立谷川工業団地協会は「全体的に業況は上昇気運で見通しも良いと判断している。一方で人手不足は各企業に共通して顕著であり、求人しても応募が少ないという声が組合に寄せられている」と懸念。山形鋳物工業団地協会も深刻な状況が続いている人手不足を憂慮するとともに「工芸鋳物について欧州を中心に輸出品に対する基準が厳しくなっており、その対策に追われている」と述べた。

山形建設工業団地協会は、受注は順調に推移しているとしながらも、消費税増税などにより、この傾向は2019年上中旬までではと予想。「東日本大震災の復興工事や東京五輪パラリンピック工事に、現場監督者や職人が吸い上げられている。材料の値上げと併せて受注を見合わせている状況も見られる」と指摘している。また、外国人労働者の採用については、技術の指導育成が簡単ではないとの理由で、人手不足解決には簡単にはつながらないのでは、と疑問視した。

山形打刃物工業協会は、ユーザーである高齢化・機械化で内刃物を使用する農家の減少は著しく、厳しい状況が続いている。しかし、剪定はさみなど伝統の技術を活かして販路を開拓している組合員もおり、組合としてもバックアップしていきたいと話した。



業況など組合の動向を話し合った連絡協議会

山形青果商業協会は、昨年の同時期に比べて果物、野菜ともに安定した価格で秋のシーズンを迎えている。とくに果物では、本県産のシャインマスカットが、他産地に比べて大粒であることから人気を呼び、東京・大田市場で高値が付いた。サクランボ、ラ・フランスと並ぶ山形のブランドとして期待を掛けていると紹介。組合としては、市場の活性化に向けて山形市公設地方卸市場への指定管理者制度導入について関係者と連携し検討していきたいと述べた。

山形県理容業生活同業組合山形支部は「全国の理容師が腕を競う大会で、本県の代表が準優勝、4位、7位と東北地方で最高の成績を収めた。また、組合員有志で設立した山形県冷やしシャンプー推進協議会が、冷やしシャンプーをネット販売したところ、昨年の10倍近く売れた」と紹介した。

山形県美容業生活同業組合山形支部は「新規開店が増加傾向にあり、県外からの大型店の参入が目立つ。組合への加入を推進するためPR活動を展開している」と報告。山形市管工事協会は「業況の目安となる上下水道の受注は、来年の消費税増税前にしての住宅建築の駆け込み需要に伴って増えている。また、山形市の発注が1月に前倒しされたことで、春先に工事ができることになり、仕事の平準化に寄与している」と述べた。